

登録コード	L1330100		開講年度	2026			
担当教員	菊池 聡			副担当			
授業科目	文化情報論基礎実習						
英文授業名	Rudimentary Data Processing Practice						
授業タイトル	practice in culture and information						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限 水曜・4時限
講義室	人文文化情報論実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				数量データをさまざまな方法で要約して情報化できるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー				説得と態度変容のための効果的なプレゼンテーションができるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力				身近な現象に問題を提起し、それを具体的な手続きで問題解決につなげることができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				情報を多面的にとらえ、批判的に思考できるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				説得とコミュニケーションの技法としての有効なプレゼンテーションを実行できるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	基本的なアプリケーションソフトの特徴を活かした情報の取り扱い方を一通り習得し、次いでこれらを活用した情報の収集・分析・表現に関する実践的な実習までを行う。中でも情報機器の柔軟な活用能力やプレゼンテーション能力、グラフィカルな表現力の向上に重点を置く。 情報リテラシー初心者等を想定して実習を進めるので、開始時点でのコンピュータ・情報システムに関する高度な知識技能は特に必要ない。ただし、実習参加に当たっては、授業時間外にも自習時間を確保する必要がある。						
授業計画	実習の進行により、内容や順序は多少変動する可能性がある。 第1週 知的生産のための情報整理と編集スキルを身につける 1 ガイダンス 第2週 同 2 文書情報処理の特性 第3週 同 3 DRY原則を理解する 第4週 身の回りのデータを柔軟に加工し、目的にあわせて利用する 1 数値データ処理 第5週 同 2 関数の活用 第6週 同 3 実データの応用分析 第7週 情報を可視化してわかりやすく表現する 1 画像データの基本処理 第8週 同 2 オブジェクト編集 第9週 同 3 図解の応用 第10週 ビジュアル情報表現とプレゼンテーションスキルを訓練する 1 基礎理論 第11週 同 2 応用トレーニング 第12週 同 3 プレゼン 指定課題 第13週 同 4 プレゼン ビジュアル課題 第14週 同 5 最終プレゼン課題 総合 第15週 情報活用力を総括し、さらなる向上のきっかけを得る。授業アンケート実施						
成績評価の方法	実習内容に関する課題の提出や小テストをほぼ毎週行い、それぞれの課題達成度を評価する。これらの評価をすべて加算したもので成績評価（100％）とする。未提出課題が一つでもある場合は、やむを得ない場合をぞいて、加算点で評価せず、成績を不可とする。必ずすべての課題をクリアしなければならない。また、形成的評価によって学習の支援を行うため、総合成績に占める個別の課題の割合は、実施回数と内容によって変わる。欠席せずに毎週参加すること。						
成績評価の基準	すべての課題のすべてにおいて情報環境を適切に使いこなし、実習で直接扱った範囲だけでなく、それらを十分に発展させた高度な情報活用能力を主体的に示すことができれば「卓越している」、課題のほとんどで実習でカバーしている範囲の応用的な情報活用能力を示すことができれば「かなり上にある」、課題の半分以上で、十分に実践的な情報活用能力を示すことができれば「やや上にある」、複数の課題の多くで実習で扱ったレベルをクリアする情報活用能力を示すことが出来れば「水準にある」と評価される。						
事前事後学習の内容	毎回、情報活用に関する課題を指示するので、それを次の実習までに遂行しておくことを求める。たとえば4月中には、PCキーボードを見ずに日本語入力を一定のスピードで行えるように訓練しておくこと。実習中にテストを行う。こうした事前・事後の準備がすべての週について指示される。						
履修上の注意	本実習は、前期水曜5時限「文化情報論発展演習」と必ずセットで受講すること。本実習から連続して授業を行う。また、文化情報論領域の2年次生は後期の「文化情報論基礎実習」ともセットで必ず受講						

履修上の注意	すること。 文化情報論領域の必修実習であり文化情報論領域の学生は必ず受講すること。それ以外の学生も教室設備の収容人数内で受講できる可能性があるので、希望者は一週間前までに問い合わせること。また、他領域学生の場合でも、「文化情報論発展演習」とのセット受講が必要。 受講生は情報処理技術者「ITパスポート」資格試験を受験する。 学生のレポートなどの提出物は、改善点などの参考にするため、実習内で互いに公開（原則として匿名）し、検討の対象とすることがある。
質問、相談への対応	実習形式の授業であり、実習中に具体的な質問を受けつける時間は十分に設ける。およびLMS:eALPS上での質問フォームを利用して質問相談には適宜対応する。 その他の個別の相談内容は、担当教員・菊池のアドレス skikuch@shinshu-u.ac.jpへ。 ただし、個人の識別ができないメールについては返信しない。
教科書	授業中に紹介
参考書	相澤祐介(2025). 論文・レポート作成につかうword2024活用法 カットシステム